

2007年3月5日(月)  
参議院議員 犬塚直史

## 「新しい日本のODA」を語る会

於：政策研究大学院大学

### 発言要旨

人間の安全保障という理念に基づく非常に広い仕事範囲のなかで、何よりも必要とされるのは人間の能力と経験です。特に日本においては、国際貢献が個人のキャリアとして定着する環境づくりが必要です。

NGO、JICA、外務省、防衛省、文民警察、地方自治体などの幅広い分野から現役・退職後を問わず、個人参加による協力体制を想定し、これを支える給与体系、社会保障、保険制度などが整備され、場合によっては復職が保障されることが必要でしょう。新しい日本のODAを考えるに当たって、日本版ピアソン・センターといったような国際的訓練施設が不可欠であることを確信します。

### 【レジュメ】

#### < ODAと保護する責任(R2P) >

##### 3つの局面

1. R2P 予防-極度の貧困の撲滅
2. R2P 対処-PRT 等への対応
3. R2P 再建-社会制度構築支援

#### < 説得力をもつ日本の実績 >

灰燼のバラックから経済成長をとげた実績  
米国以外への武器輸出を慎んできた原則

#### < 幅広い協力 >

文民警察、地方自治体など  
キャリアとしての国際貢献

#### < 新しい方向性 >

日本版ピアソン・センター  
UNEPS  
ミドルパワー・コアリション

以上